

宮崎県経済の動き

(平成18年1～3月期)

目 次

1	総	論	-----	1	
2	各	論	-----	3	
3	資	料	編	-----	8

平成18年6月

宮崎県総合政策本部統計調査課

1 総論

本県の経済は、生産活動全体としては引き続き好調であり、消費は底堅く推移している。雇用は依然厳しい状況にあるが、緩やかな改善の動きが続いている。投資は持ち直しの動きが見られるものの、企業関連は依然厳しい状況にある。景気は、一部にやや弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復基調にある。

各分野の動きを見ると、生産活動は、「電子部品・デバイス工業」が引き続き前期を上回り、「食料品・たばこ工業」とも高い水準を維持したため、全体としては平成12年以降最高の水準となった。大口電力使用量は、前年同期を上回った。

消費関連は、前年同期を下回った指標が多いものの、底堅く推移している。

雇用情勢は、依然厳しい状況にあるものの、有効求人倍率が前期を大きく上回り、また新規求人数も前年同期を上回るなど、緩やかな改善の動きが続いている。

投資関連は、新設住宅着工戸数、公共工事請負金額とも前年同期を大きく上回った。

企業関連は、企業倒産件数が前年同期を下回ったものの、負債額が前年同期を大きく上回り、依然厳しい状況にある。

○主な経済指標

下段：「単位」の欄に注釈のある項目を除き、前年同期比(%)、pは速報値

分野	指標	単位	H17 I	H17 II	H17 III	H17 IV	H18 I
生産	鉱工業生産指数 (季節調整値)	(H12=100) ※ 前期比	99.7 △ 2.6	100.2 0.6	99.0 △ 1.2	107.5 8.6	p108.8 p1.3
	鉱工業在庫指数 (季節調整値)	(H12=100) ※ 前期比	97.0 4.1	100.0 3.1	103.8 3.8	103.5 △ 0.3	p106.8 p3.2
	大口電力使用量	千kwh	438,308 1.2	474,129 △ 4.0	475,962 3.6	501,011 9.4	457,267 4.3
消費	大型小売店 販売額	百万円	22,406 △ 3.1	22,213 2.8	22,673 3.3	26,459 3.6	22,614 0.9
	新車登録台数	台	8,766 0.9	6,800 12.3	7,581 5.4	6,864 △ 1.0	8,467 △ 3.4
	新車届出台数	台	7,941 △ 1.3	6,406 2.6	6,663 4.1	6,354 4.2	7,864 △ 1.0
	航空便 利用客数(乗)	人	404,699 △ 2.1	362,927 1.4	403,126 2.7	379,922 △ 1.2	399,466 △ 1.3
	航空便 利用客数(降)	人	381,240 △ 1.0	359,531 2.0	403,737 3.0	403,110 △ 0.5	377,199 △ 1.1
	主要ホテル ・旅館宿泊客数	人	306,581 3.7	254,214 △ 1.0	315,820 5.8	283,606 △ 8.9	- -
	消費者物価指数 (総合指数)	(H12=100)	97.6 0.0	97.6 △ 0.2	97.4 △ 0.8	97.4 △ 1.1	97.4 △ 0.2
雇用・労働	有効求人倍率 (季節調整値)	倍 ※前期差:ポイント	0.63 0.00	0.62 △ 0.01	0.58 △ 0.04	0.59 0.01	0.66 0.07
	新規求人数	人	20,001 13.7	16,721 0.8	17,216 △ 9.1	17,557 △ 4.1	20,538 2.7
投資	新設住宅 着工戸数	戸	1,478 △ 9.6	1,929 △ 0.5	2,179 △ 7.3	2,223 5.4	1,765 19.4
	公共工事 請負金額	百万円	57,793 41.3	30,170 △ 20.1	46,974 △ 28.7	51,634 △ 7.1	78,320 35.5
企業・金融	企業倒産件数	件	16 △ 48.4	27 35.0	21 △ 16.0	24 4.3	15 △ 6.3
	企業倒産負債額	百万円	10,316 188.4	6,661 114.0	4,337 △ 35.7	3,390 29.3	39,017 278.2

○前回（平成17年10～12月期）からの変更点

	前 回	今 回
期 間	平成17年10～12月期	平成18年1～3月期
総 論	<p>本県の経済は、生産は一部に高い水準の業種もあり、生産活動全体としては好調であった。消費は底堅く推移しているものの、<u>雇用は依然として厳しい状況にある。</u><u>投資や企業関連も同様に依然厳しい状況にある。</u>景気は、<u>引き続き足踏み感があるものの、緩やかな回復に向けた動きがみられる。</u></p>	<p>本県の経済は、<u>生産活動全体としては引き続き好調であり、消費は底堅く推移している。</u><u>雇用は依然厳しい状況にあるが、緩やかな改善の動きが続いている。</u><u>投資は持ち直しの動きが見られるものの、企業関連は依然厳しい状況にある。</u>景気は、<u>一部にやや弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復基調にある。</u></p>
生産関連	<p>生産活動は、全体としては<u>好調であった。</u></p>	<p>生産活動は、全体としては<u>平成12年以降最高の水準となった。</u></p>
消費関連	<p>消費関連は、前年同期を下回った指標が多いものの、<u>その減少幅は小さく、消費自体は底堅く推移している。</u></p>	<p>消費関連は、前年同期を下回った指標が多いものの、<u>底堅く推移している。</u></p>
雇用・労働関連	<p>雇用情勢は、<u>全体として緩やかな改善の動きがみられるものの、依然厳しい状況にある。</u></p>	<p>雇用情勢は、<u>依然厳しい状況にあるものの、緩やかな改善の動きが続いている。</u></p>
投資関連	<p>投資関連は、<u>新設住宅着工戸数が好調であったものの、依然低調に推移した。</u></p>	<p>投資関連は、<u>新設住宅着工戸数、公共工事請負金額とも前年同期を大きく上回った。</u></p>
企業・金融関連	<p>企業関連は、依然厳しい状況にある。</p>	<p>企業関連は、依然厳しい状況にある。</p>

2 各論

(1) 生産関連

鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数（3-1表）は、ともに2期連続で前期を上回った。

ウェイトの高い業種別に生産指数（2-1表）の推移を見ると、「電子部品・デバイス工業」が引き続き前期を上回り、「食料品・たばこ工業」とともに高い水準で推移したため、総合指数としては前期を上回った。

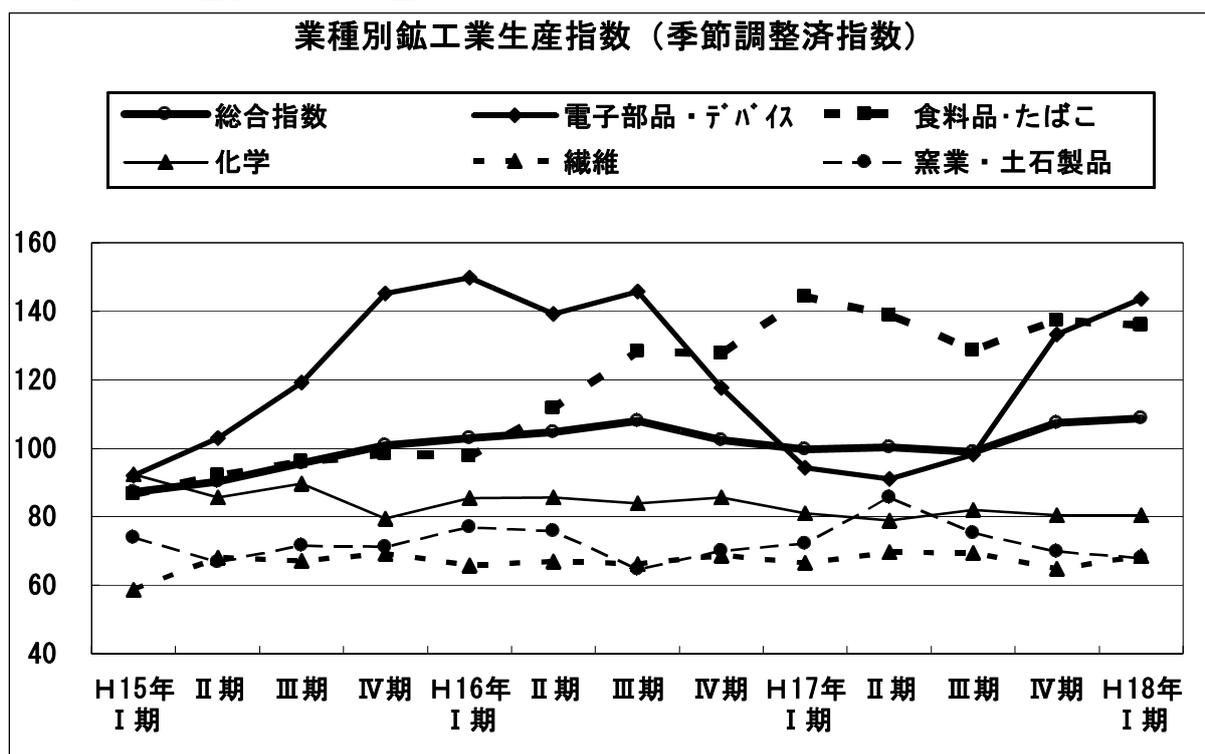
鉱工業在庫指数（3-1表）は、2期ぶりに前期を上回った。

在庫循環の推移を示す在庫循環図（2-2表）で見ると、「在庫積み増し局面」となった。

大口電力使用量（3-2表）は、3期連続で前年同期を上回った。

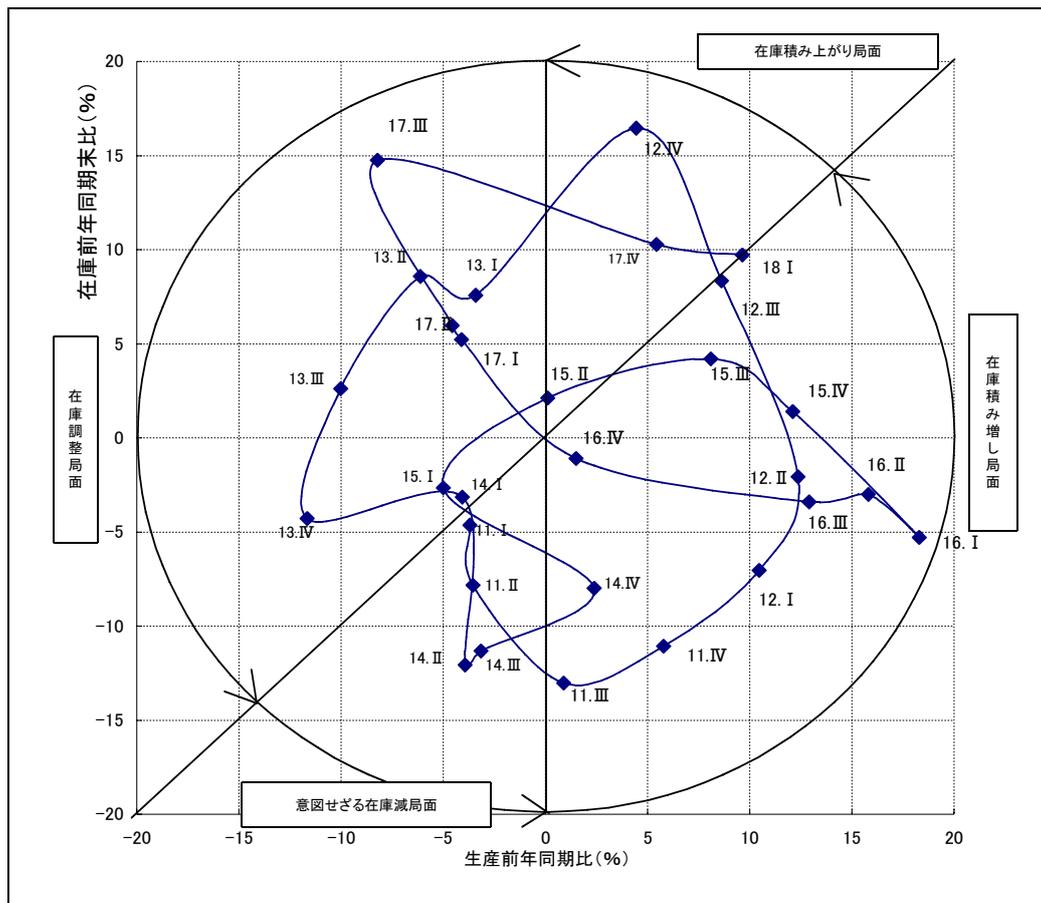
生産活動は、全体としては平成12年以降最高の水準となった。

○主な業種別鉱工業生産指数（季節調整済指数）（平成12年=100）（2-1表）



○在庫循環図

(2-2表)



※1 生産前年同期比、在庫前年同期末比は原指数で算出。

※2 在庫前年同期末比は、昨年と今年の各3, 6, 9, 12月を比較。

○在庫循環図

在庫循環図は、生産指数の伸び率と在庫指数の伸び率を利用して、在庫循環の4段階を示した図である。

○在庫循環図が示す4段階

I 意図せざる在庫減局面【景気回復初期局面】

生産、在庫ともに縮小で、かつ生産より在庫の方がより縮小している状態である。

II 在庫積み増し局面【景気回復局面】

生産を増加させて在庫を積み増していき、在庫の伸びは生産の伸びを上回ることがない状態である。

III 在庫積み上がり局面【景気減速局面】

生産はなおも増加基調であり、その生産の増加率を上回って在庫が増加していく状態である。

IV 在庫調整局面【景気低迷局面】

生産は減少に転じ、在庫水準を下げっていく状態である。

(2) 消費関連

大型小売店販売額（3－3表）は4期連続で前年同期を上回ったものの、既存店どうしの比較では前年同期を下回った。

新車登録台数（3－4表）は、2期連続で前年同期を下回った。

新車届出台数（3－4表）は、4期ぶりに前年同期を下回った。

航空便利用客数（3－5表）は、乗客数・降客数とも2期連続で前年同期を下回った。

消費者物価指数（宮崎市）（3－7表）は、総合指数、生鮮食品を除く総合指数ともに、4期連続で前年同期を下回った。

消費関連は、前年同期を下回った指標が多いものの、底堅く推移している。

(3) 雇用・労働関連

有効求人倍率（3－8表）は、前期を大きく上回り、2期連続で上昇した。また、全国の完全失業率（3－8表）は、3期ぶりに前期を下回った。

新規求職申込件数（3－9表）は、4期連続で前年同期を上回った。

新規求人数（3－9表）は、3期ぶりに前年同期を上回った。

実質賃金指数（きまって支給する給与）（3－10表）は、前年同期と横ばいとなった。総実労働時間指数（3－10表）は、4期連続で前年同期を上回り、所定外労働時間指数（3－10表）は、2期連続で前年同期を上回った。常用雇用指数（3－10表）は、2期連続で前年同期を上回った。

雇用情勢は、依然厳しい状況にあるものの、緩やかな改善の動きが続いている。

(4) 投資関連

新設住宅着工戸数（3－11表）は、前年同期を大きく上回り、2期連続で増加した。

公共工事請負件数（3－12表）は、当期、年度累計ともに前年同期を大きく上回った。また、公共工事請負金額（3－12表）は、当期は前年同期を大きく上回り、年度累計は前年同期を下回った。

投資関連は、新設住宅着工戸数、公共工事件数とも前年同期を大きく上回った。

(5) 企業・金融関連

企業倒産件数（3－13表）は2期ぶりに前年同期を下回ったが、負債額（3－13表）は前年同期を大きく上回り、2期連続で増加した。

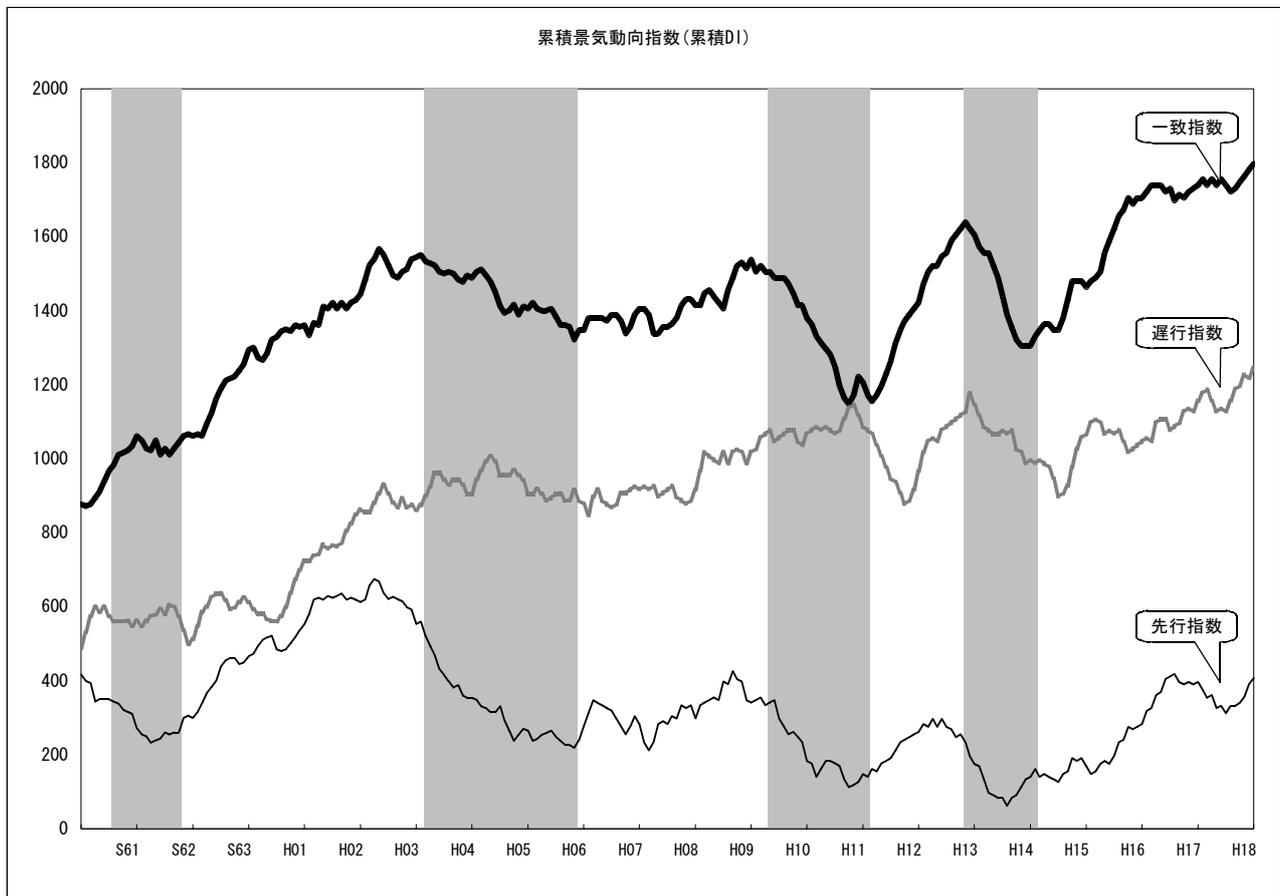
金融機関預金残高（3－14表）は、前年同期を上回った。また、金融機関貸出金残高（3－15表）は、前年同期を下回った。

企業・金融関連は、依然厳しい状況にある。

○景気動向指数

累積景気動向指数（2-3表）は、一致指数が緩やかな上昇傾向となっている。

（2-3表）



○景気動向指数

- 1 複数の経済指標の変化（伸び率は関係ない）を合成し、数値化したものである。
- 2 景気動向指数は、景気の方角性を示すものであり、その数値の大きさは、景気変動の大きさを示すものではない。
- 3 景気動向指数には、景気に先行して動く「先行指数」、ほぼ一致して動く「一致指数」、遅れて動く「遅行指数」の3種類がある。

○累積景気動向指数（累積DI）

- 1 景気動向指数（DI）の月々の値を累積したものが、累積景気動向指数（累積DI）である。
 - ◆ 今月の累積DI = 前月の累積DI + (今月のDI - 50)
- 2 累積DIには、景気の動きと連動する性質があるため、景気の動きを視覚的にとらえやすいという利点がある。

なお、本県の景気後退期は、
昭和60年10月～昭和61年12月、平成3年5月～平成6年1月、平成9年7月～平成11年4月
平成13年1月～平成14年4月
である。

< 資 料 編 >

3 経済指標の動き

生産関連

(1) 鉱工業指数(平成12年=100:季節調整済指数)

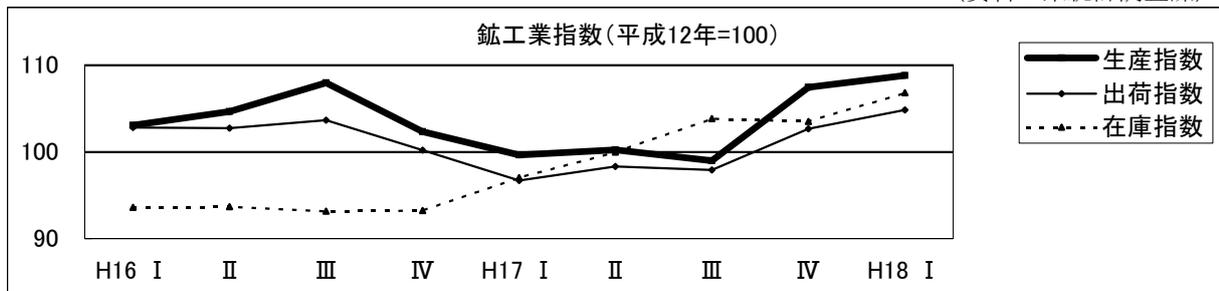
- 生産指数は、2期連続で前期を上回った。
- 出荷指数は、2期連続で前期を上回った。
- 在庫指数は、2期ぶりに前期を上回った。

< 3-1表 >

平成12年=100 単位: %

	生産指数		出荷指数		在庫指数		
		前期比		前期比		前期比	
H16	I	103.1	2.2	102.8	0.2	93.6	▲ 2.5
	II	104.7	1.6	102.7	▲ 0.1	93.7	0.1
	III	108.0	3.2	103.7	0.9	93.2	▲ 0.5
	IV	102.3	▲ 5.2	100.2	▲ 3.3	93.2	0.1
H17	I	99.7	▲ 2.6	96.7	▲ 3.5	97.0	4.1
	II	100.2	0.6	98.3	1.7	100.0	3.1
	III	99.0	▲ 1.2	97.9	▲ 0.4	103.8	3.8
	IV	107.5	8.6	102.7	4.8	103.5	▲ 0.3
H18 I	p 108.8	p 1.3	p 104.8	p 2.1	p 106.8	p 3.2	

(資料: 県統計調査課)



(2) 大口電力使用量

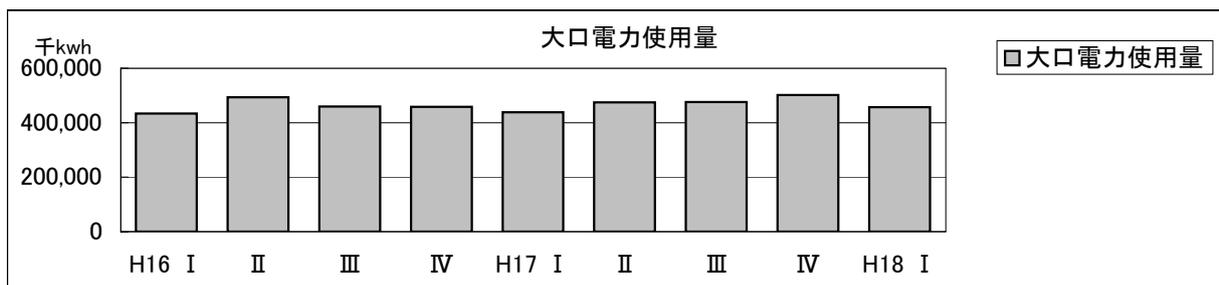
- 大口電力使用量は、3期連続で前年同期を上回った。

< 3-2表 >

単位: 千kwh、%

	大口電力使用量		
		前年同期比	
H16	I	433,228	8.4
	II	493,823	18.9
	III	459,534	8.4
	IV	457,975	1.3
H17	I	438,308	1.2
	II	474,129	▲ 4.0
	III	475,962	3.6
	IV	501,011	9.4
H18 I	457,267	4.3	

(資料: 九州電力(株)宮崎支店)



消費関連

(3) 大型小売店販売額（百貨店、スーパー 計29店舗）

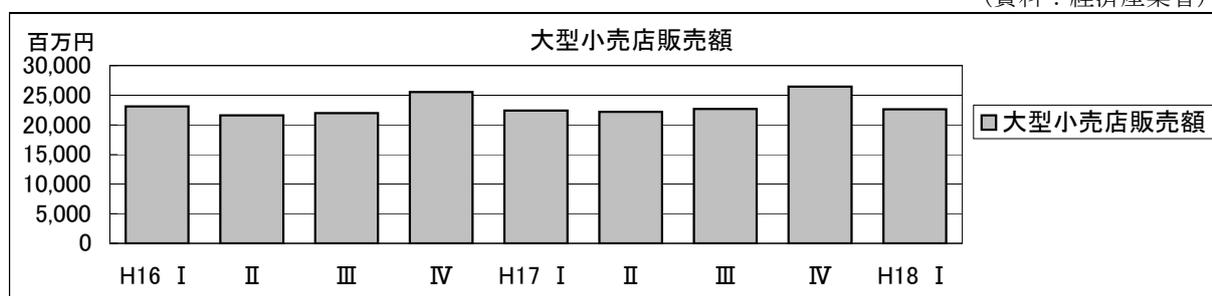
○大型小売店販売額は4期連続で前年同期を上回ったものの、既存店どうしの比較では前年同期を下回った。

< 3-3表 >

単位：百万円、%

	衣料品	飲食料品	その他	計	前年同期比		
					既存店		
H16	I	9,352	7,038	6,732	23,122	4.4	▲ 6.4
	II	8,714	6,429	6,463	21,606	▲ 5.2	▲ 8.2
	III	7,848	7,426	6,680	21,954	▲ 5.6	▲ 5.3
	IV	9,633	8,054	7,847	25,534	▲ 3.1	▲ 3.1
H17	I	9,104	6,386	6,916	22,406	▲ 3.1	▲ 2.9
	II	8,648	6,274	7,290	22,213	2.8	▲ 1.9
	III	7,673	7,808	7,192	22,673	3.3	▲ 6.2
	IV	9,962	8,358	8,139	26,459	3.6	▲ 3.5
H18 I	8,730	6,850	7,033	22,614	0.9	▲ 7.7	

(資料：経済産業省)



※ 百貨店及びスーパーとは、従業者50人以上の小売事業所のうち、次に該当するものである。

- (1) 百貨店：日本標準産業分類の百貨店(541)のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ売場面積が1,500㎡以上の事業所
- (2) スーパー：売場面積の50%以上について、セルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ売場面積が1,500㎡以上の事業所

(4) 新車登録・届出台数

○新車登録台数は、2期連続で前年同期を下回った。
新車届出台数は、4期ぶりに前年同期を下回った。

< 3-4表 >

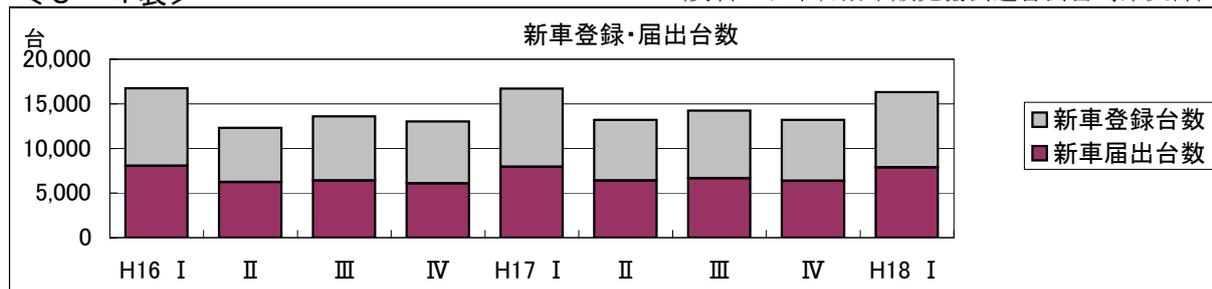
単位：台、%

	新車登録台数		新車届出台数		
	前年同期比		前年同期比		
H16	I	8,687	▲ 7.5	8,047	7.7
	II	6,053	▲ 9.8	6,241	3.1
	III	7,196	▲ 7.6	6,401	1.3
	IV	6,933	1.6	6,099	1.0
H17	I	8,766	0.9	7,941	▲ 1.3
	II	6,800	12.3	6,406	2.6
	III	7,581	5.4	6,663	4.1
	IV	6,864	▲ 1.0	6,354	4.2
H18 I	8,467	▲ 3.4	7,864	▲ 1.0	

※ 届出自動車は、排気量660cc未満の自動車である。

(資料：日本自動車販売協会連合会宮崎県支部)

< 3-4表 >



(5) 航空便利用客数

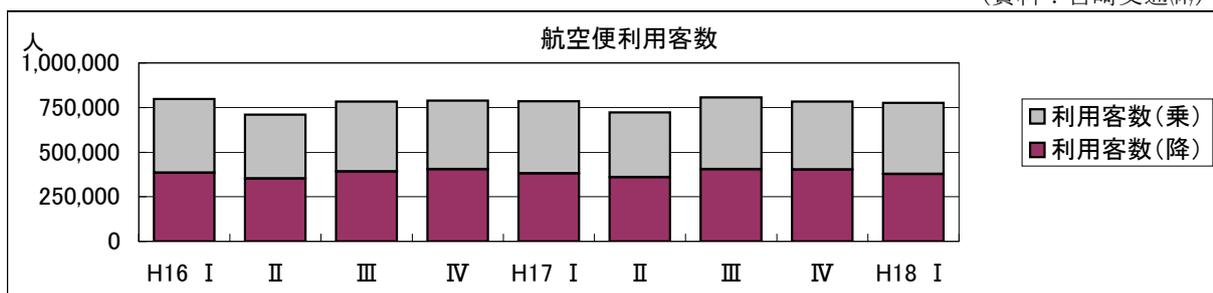
○乗客数は、2期連続で前年同期を下回った。
降客数は、2期連続で前年同期を下回った。

< 3-5表 >

単位：人、%

	利用客数（乗）		利用客数（降）	
		前年同期比		前年同期比
H16 I	413,173	▲ 7.6	384,934	▲ 7.9
II	357,792	0.3	352,575	1.0
III	392,474	▲ 7.7	391,823	▲ 7.6
IV	384,371	▲ 2.1	405,069	▲ 2.3
H17 I	404,699	▲ 2.1	381,240	▲ 1.0
II	362,927	1.4	359,531	2.0
III	403,126	2.7	403,737	3.0
IV	379,922	▲ 1.2	403,110	▲ 0.5
H18 I	399,466	▲ 1.3	377,199	▲ 1.1

(資料：宮崎交通㈱)



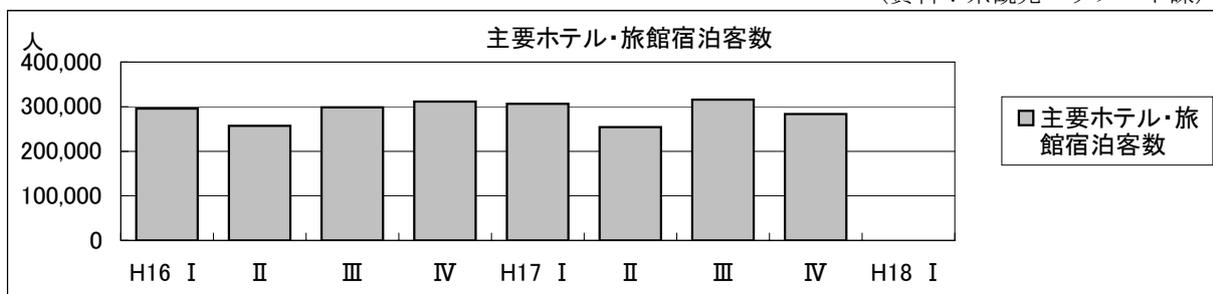
(6) 主要ホテル・旅館宿泊客数

< 3-6表 >

単位：人、%

	主要ホテル・旅館宿泊客数	
		前年同期比
H16 I	295,512	6.4
II	256,771	12.7
III	298,608	▲ 1.4
IV	311,242	13.6
H17 I	306,581	3.7
II	254,214	▲ 1.0
III	315,820	5.8
IV	283,606	▲ 8.9
H18 I	-	-

(資料：県観光・リゾート課)



(7) 消費者物価指数(平成12年=100)

○総合指数は、4期連続で前年同期を下回った。
生鮮食品を除く総合指数は、4期連続で前年同期を下回った。

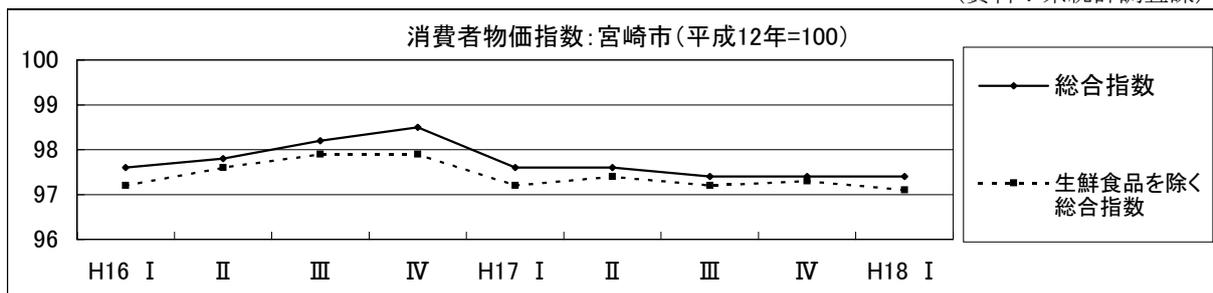
< 3-7表 >

平成12年=100 単位：%

	総合指数		生鮮食品を除く総合指数	
	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比
H16 I	97.6	▲ 0.2	97.2	▲ 0.2
II	97.8	▲ 0.3	97.6	▲ 0.3
III	98.2	▲ 0.3	97.9	▲ 0.2
IV	98.5	0.6	97.9	0.0
H17 I	97.6	0.0	97.2	0.0
II	97.6	▲ 0.2	97.4	▲ 0.2
III	97.4	▲ 0.8	97.2	▲ 0.7
IV	97.4	▲ 1.1	97.3	▲ 0.6
H18 I	97.4	▲ 0.2	97.1	▲ 0.1

※ 消費者物価指数は、宮崎市の数値である。

(資料：県統計調査課)



雇用・労働関連

(8) 雇用情勢

○有効求人倍率(県)は、前期を大きく上回り、2期連続で上昇した。
完全失業率(国)は、3期ぶりに前期を下回った。

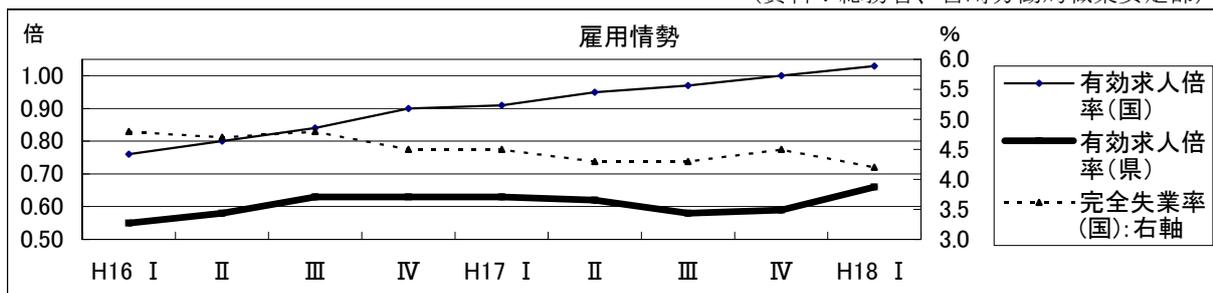
< 3-8表 >

単位：倍、%、ポイント

	有効求人倍率(国)		有効求人倍率(県)		完全失業率(国)	
	前期差	前期差	前期差	前期差	前期差	前期差
H16 I	0.76	0.03	0.55	0.00	4.8	▲ 0.2
II	0.80	0.04	0.58	0.03	4.7	▲ 0.1
III	0.84	0.04	0.63	0.05	4.8	0.1
IV	0.90	0.06	0.63	0.00	4.5	▲ 0.3
H17 I	0.91	0.01	0.63	0.00	4.5	0.0
II	0.95	0.04	0.62	▲ 0.01	4.3	▲ 0.2
III	0.97	0.02	0.58	▲ 0.04	4.3	0.0
IV	1.00	0.03	0.59	0.01	4.5	0.2
H18 I	1.03	0.03	0.66	0.07	4.2	▲ 0.3

※ 数値は、季節調整値である。

(資料：総務省、宮崎労働局職業安定部)



(9) 求人状況

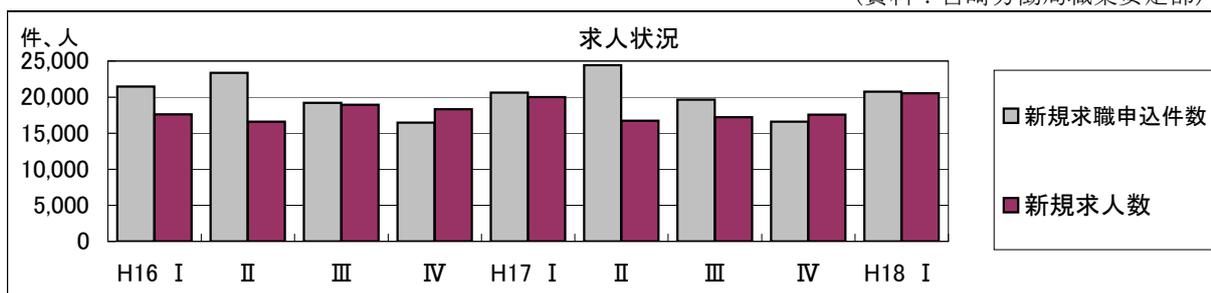
○新規求職申込件数は、4期連続で前年同期を上回った。
 新規求人数は、3期ぶりに前年同期を上回った。

< 3-9表 >

単位：件、人、%

	新規求職申込件数		新規求人数	
	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比
H16 I	21,478	5.5	17,598	7.2
II	23,348	▲ 6.0	16,595	10.6
III	19,190	▲ 3.3	18,944	11.6
IV	16,445	▲ 0.1	18,312	9.6
H17 I	20,632	▲ 3.9	20,001	13.7
II	24,415	4.6	16,721	0.8
III	19,626	2.3	17,216	▲ 9.1
IV	16,575	0.8	17,557	▲ 4.1
H18 I	20,753	0.6	20,538	2.7

(資料：宮崎労働局職業安定部)



(10) 労働関係指数 (平成12年=100)

○実質賃金指数 (きまって支給する給与) は、前年同期と横ばいとなった。
 総実労働時間指数は、4期連続で前年同期を上回った。
 所定外労働時間指数は、2期連続で前年同期を上回った。
 常用雇用指数は、2期連続で前年同期を上回った。

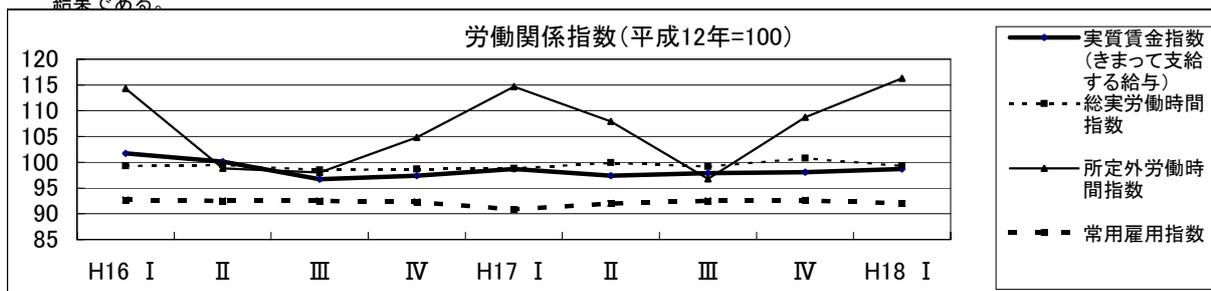
< 3-10表 >

平成12年=100 単位：%

	実質賃金指数 (きまって支給する給与)		総実労働時間指数		所定外労働時間指数		常用雇用指数	
	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比	
H16 I	101.7	0.1	99.3	▲ 1.0	114.3	▲ 0.3	92.7	▲ 1.5
II	100.1	▲ 0.9	99.5	▲ 4.6	98.8	▲ 11.0	92.5	▲ 1.6
III	96.7	▲ 2.1	98.5	▲ 4.9	98.0	▲ 17.7	92.5	▲ 1.5
IV	97.4	▲ 2.4	98.7	▲ 5.2	104.8	▲ 14.3	92.3	▲ 2.2
H17 I	98.7	▲ 2.9	98.8	▲ 0.5	114.7	0.3	90.8	▲ 2.0
II	97.4	▲ 2.7	99.9	0.4	107.9	9.2	92.0	▲ 0.5
III	97.9	1.2	99.2	0.7	96.8	▲ 1.2	92.5	0.0
IV	98.1	0.7	100.8	2.1	108.7	3.7	92.6	0.3
H18 I	98.7	0.0	99.3	0.5	116.3	1.4	92.0	1.3

(資料：県統計調査課)

注) 平成16年については、日本標準産業分類の改訂に伴い、指数は新産業分類、前年(同期)比は旧産業分類による集計結果である。



投資 関 連

(11) 新設住宅着工戸数

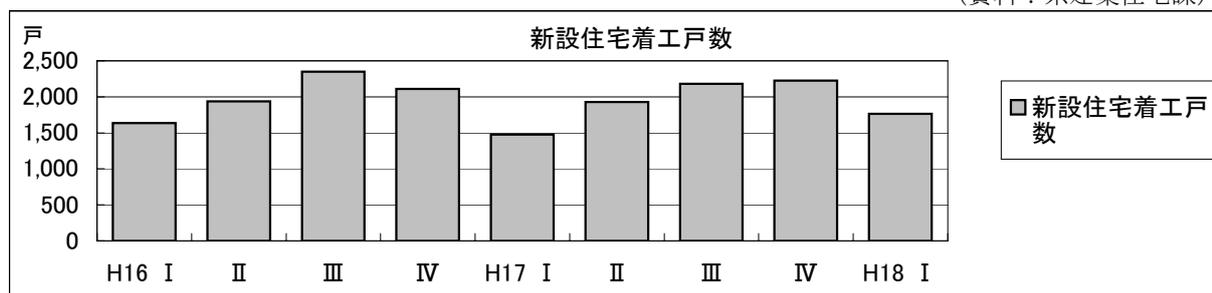
○新設住宅着工戸数は、前年同期を大きく上回り、2期連続で増加した。

< 3 - 1 1 表 >

単位：戸、%

	新設住宅着工戸数	
	前年同期比	
H16	I	1,635 ▲ 0.2
	II	1,938 ▲ 3.8
	III	2,350 24.3
	IV	2,110 ▲ 4.2
H17	I	1,478 ▲ 9.6
	II	1,929 ▲ 0.5
	III	2,179 ▲ 7.3
	IV	2,223 5.4
H18 I	1,765	19.4

(資料：県建築住宅課)



(12) 公共工事請負状況

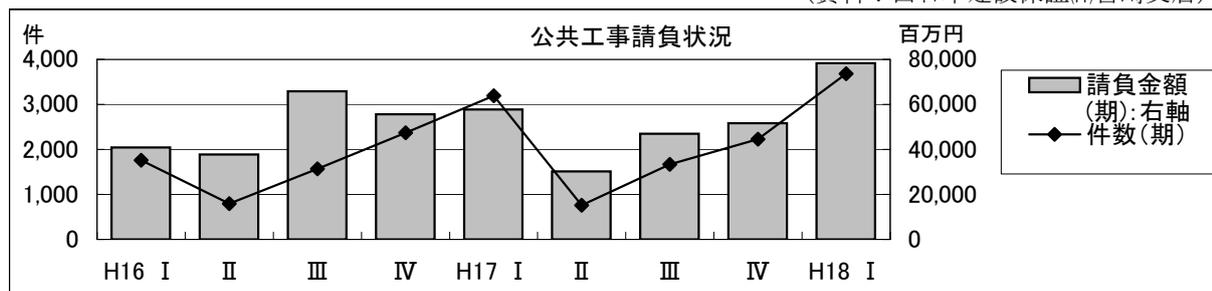
○公共工事請負件数は、当期、年度累計ともに前年同期を大きく上回った。
公共工事請負金額は、当期は前年同期を大きく上回り、年度累計は前年同期を下回った。

< 3 - 1 2 表 >

単位：件、百万円、%

	件数 (期)		件数 (年度累計)		請負金額 (期)		請負金額 (年度累計)	
	前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比	
H16	I	1,759 ▲ 3.6	6,967 ▲ 0.8	40,903 ▲ 21.1	206,832 ▲ 9.5			
	II	791 4.9	791 4.9	37,752 12.1	37,752 12.1			
	III	1,564 ▲ 9.1	2,355 ▲ 4.8	65,844 ▲ 3.1	103,596 1.9			
	IV	2,372 ▲ 13.2	4,727 ▲ 9.2	55,561 ▲ 13.6	159,157 ▲ 4.1			
H17	I	3,193 81.5	7,920 13.7	57,793 41.3	216,951 4.9			
	II	762 ▲ 3.7	762 ▲ 3.7	30,170 ▲ 20.1	30,170 ▲ 20.1			
	III	1,665 6.5	2,427 3.1	46,974 ▲ 28.7	77,144 ▲ 25.5			
	IV	2,224 ▲ 6.2	4,651 ▲ 1.6	51,634 ▲ 7.1	128,778 ▲ 19.1			
H18 I	3,684 15.4	8,335 5.2	78,320 35.5	207,100 ▲ 4.5				

(資料：西日本建設保証(株)宮崎支店)



企業・金融関連

(13) 企業倒産状況（負債総額1千万円以上の法人及び個人企業）

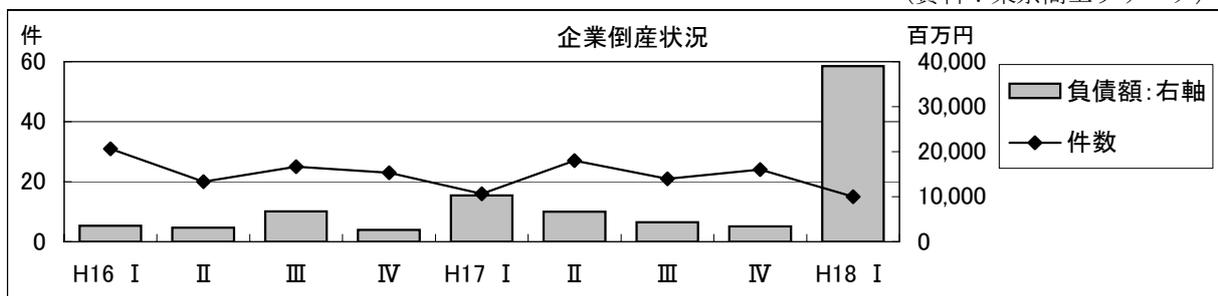
○企業倒産件数は、2期ぶりに前年同期を下回った。
負債額は、前年同期を大きく上回り、2期連続で増加した。

< 3 - 1 3 表 >

単位：件、百万円、%

	件数		負債額	
		前年同期比		前年同期比
H16 I	31	40.9	3,577	▲ 10.3
II	20	▲ 35.5	3,113	▲ 76.3
III	25	▲ 3.8	6,747	▲ 71.5
IV	23	▲ 20.7	2,622	▲ 51.1
H17 I	16	▲ 48.4	10,316	188.4
II	27	35.0	6,661	114.0
III	21	▲ 16.0	4,337	▲ 35.7
IV	24	4.3	3,390	29.3
H18 I	15	▲ 6.3	39,017	278.2

(資料：東京商工リサーチ)



(14) 金融機関預金残高

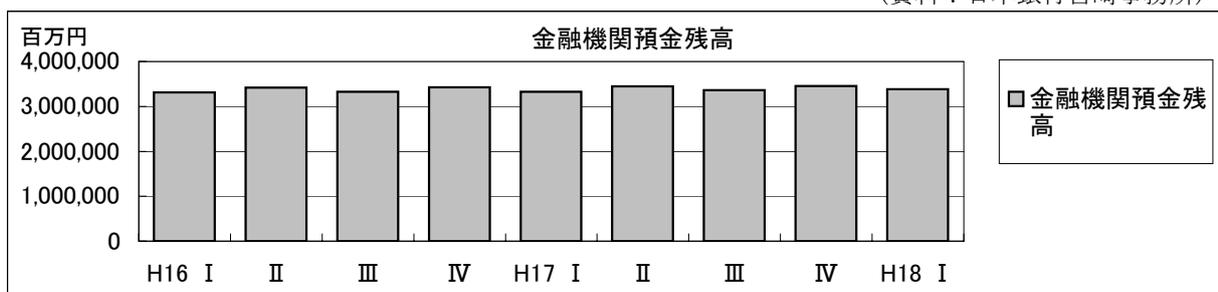
○金融機関預金残高は、前年同期を上回った。

< 3 - 1 4 表 >

単位：百万円、%

	金融機関預金残高	
		前年同期比
H16.3	3,311,614	0.9
6	3,413,884	▲ 0.9
9	3,327,328	▲ 0.9
12	3,422,138	0.7
H17.3	3,324,192	0.4
6	3,445,819	0.9
9	3,361,509	1.0
12	3,450,873	0.8
H18.2 p	3,383,955	p 1.8

(資料：日本銀行宮崎事務所)



(15) 金融機関貸出金残高

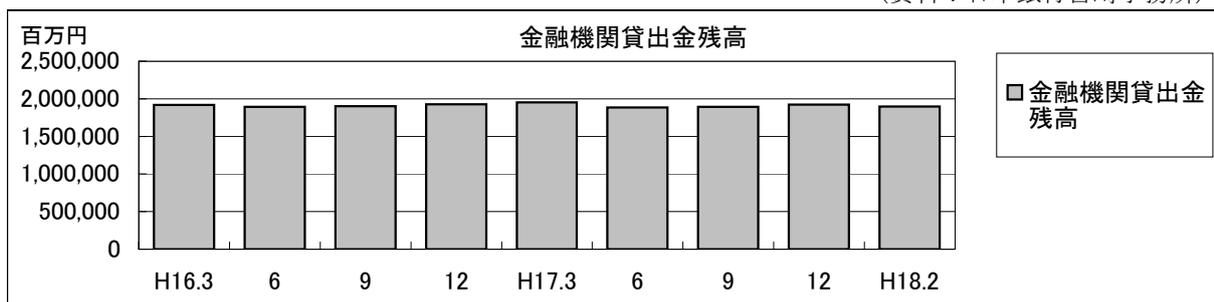
○金融機関貸出残高は、前年同期を下回った。

< 3 - 1 5 表 >

単位：百万円、%

	金融機関貸出金残高	
	前年	前年同期比
H16.3	1,916,942	▲ 0.2
6	1,891,975	1.6
9	1,902,245	0.5
12	1,926,770	0.4
H17.3	1,950,598	1.8
6	1,885,795	▲ 0.3
9	1,891,760	▲ 0.6
12	1,923,147	▲ 0.2
H18.2 p	1,897,442	p ▲ 2.7

(資料：日本銀行宮崎事務所)



景気動向指数

(16) 景気動向指数

○先行指数は、4か月連続で50.0%を上回った。
 一致指数は、5か月連続で50.0%を上回った。
 遅行指数は、2月に40.0%となったが、3月に80.0%と50.0%を上回った。

< 3 - 1 6 表 >

	先行指数	一致指数	遅行指数
H17 4月	28.6	66.7	70.0
5月	28.6	33.3	60.0
6月	57.1	66.7	20.0
7月	14.3	33.3	20.0
8月	57.1	66.7	60.0
9月	28.6	33.3	40.0
10月	71.4	33.3	80.0
11月	50.0	58.3	80.0
12月	57.1	66.7	60.0
H18 1月	p 66.7	66.7	80.0
2月	p 83.3	66.7	40.0
3月	p 66.7	66.7	80.0

(資料：県統計調査課)

